



学校だより

教育目標：元氣な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.547

令和 5年 4月 6日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

新しい春を迎えて

校長 岩井 一雄

開花からあっという間に満開を迎えた八重桜とともに、校庭の木々が芽吹き始めました。本日82名の新一年生を迎えて、全校児童504名、17学級で令和5年度の田柄第二小学校がスタートいたしました。お子様のご入学・進級、心よりお祝い申し上げます。

この春休み、学区域を自転車で巡回していたところ、ランドセルを背負って通学路を歩き、小学校へ登校する練習をしている親子の姿を何度も目にしました。どの子供も、少し緊張している表情の中にも、小学校に入学することへの期待と喜びで、瞳がきらきらと輝いていたことが心に残りました。この子供たちの期待に応える教育活動を進める学校をつくっていかねば・・・、と決意を新たにしました次第です。

春の花が咲き香るこの季節は、別れと出会いが交錯する時でもあります。去る3月末、85名の第53回卒業生が大きな夢や希望を胸に巣立っていきました。「自分たちの新たな発想を生かして学習や行事をつくり上げる」ことや、「最高学年として模範となる態度」で過ごすことなど、下学年の児童に見本を示してくれました。今日から始まる新年度も、これら「模範となる態度」や「新しい発想を生かして学習や行事をつくり上げていく」ことは、よき伝統として新たな6年生に引き継がれ、下学年の見本として田二小を引っ張っていく原動力になることでしょう。

さて、令和元年度末からのコロナ禍により、学校の授業や行事は大きな制限を余儀なくされてきました。しかし、コロナ禍によってこれまでの形にとらわれない、児童の発想を生かした新しい学習発表会等の学校行事、一人一台のタブレットパソコンを日常的に活用した授業形態が編み出されました。さらに昨年度は、感染防止策を講じた上で、児童相互で議論し、話し合い、考えを深める活動に取り組めるようになり、対面授業のよさが改めて認識された一年でもありました。

一方、学校の外に目を移すと、国際紛争等による世界情勢の激動、気候変動、人口減少の加速、物価上昇、自然災害の増加など、先行きが見通せない、不安定かつ不安な状況が日々報ぜられています。

わたくしはこのような現在だからこそ、田二小では**自分の見方・考え方を明確にして様々な意見を聞き合い、交流し、少しでもより良い方向を目指す経験を、授業や学校生活を通して積み重ねさせたい**、と思うのです。

その結果、「よくわかった。できるようになってよかった。」「自分の考えが表現できた。」「友達の考えを聞いて、なるほど、そうか、と自分の考えが広がった。」「明日も学校に来るのが楽しみだ。」等々の気持ちを児童が実感できる学校をめざして尽力していきます。

地域の皆様やご家庭のご厚情やご支援で支えられてきた田柄第二小学校の歴史の重みを受け止め、子供たちが「田柄・春日の町で、学び・育ってよかった」と実感できるよう、教職員一同、力を合わせて令和5年度の教育活動を進めます。